



○令和3年度終業式講話(前段及び一部略)

「満つれば欠ける」

日光東照宮を知っていますか。日光東照宮は、元和3(1617)年に徳川初代将軍家康を祭神としておまつりした神社です。日光東照宮の観光ハイライトと言えば本殿入り口の陽明門です。1日中日暮れまで見ても飽きないことから、別名日暮らし門とも呼ばれます。12本の柱で支えられていて、すべて曲線の文様が施されています。陽明門をくぐり終わるところ、よく見ると柱の一本だけが逆さになっているのに気づきます。なぜ逆さなのでしょう。諸説あるようですが、不完全な柱を入れることで戒めにしたのではと言われています。つまり、完成と思えばあとは満足感から努力をしなくなるということです。そういう意味では、陽明門は未だ完成されていません。

私自身のことですが、校長室だよりを月3回ペースで発行し、年間36号を目指していましたが、35号で終わりそうです。約2年前、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった隠岐の島ウルトラマラソンに再度出場できるまで、休みの日を中心に月間100キロは走るという目標も、先月20か月目で途切れました。しかし、達成できなかったからこそ、反省や振り返りをして、その課題を認識し、その克服に向かって新たな意欲が沸いているところです。

校長室だよりで、富士山登山の「胸突き八丁」について触れたことがあります。挑戦をする中で、最後の1〜2割は違う質のものが待っているというものです。挫折の多くはこの正念場でおきます。しかし、挫折とするか、意欲に変えるかは自分したいです。挑戦は何度でもできます。

高校生活も思いどおりにいかないことが多いと思います。今は、新型コロナウイルス感染症の影響で、自分の努力ではどうしようもないことで思いどおりにいかないことが多いからなおさらです。社会ではうまくいかないことや理不尽なことがたくさんあります。そこで逃げたり、つぶれたりしないためにも高校生活の中で様々な経験を自ら選んで、挑戦して欲しいと思います。自分の限界を少し超えた目標設定、大きな志を確かにもって、高みを目指し、自分ができることは最大限やってみましょう。ただし、頑張ることと無理をすることは違います。自分から助けを求めることも大切な勇気、そして能力であることも忘れないでください。達成感は大事ですが、満足せず、自分に負けず、コロナに負けず、弱音も吐きながら頑張りを続けてください。